

2024年9月15日

「先になりたい者は、後に」

マルコによる福音書 9:33-37

坂元 高牧師

ひと昔前、イギリス映画に「炎のランナー」という映画がありました。戦前のあるオリンピック大会で、活躍した英国陸上選手に起こったエピソードをもとにした映画です。

その選手は、金メダル獲得は必至と言われた、クリスチャンの陸上選手でした。彼は順当に勝ち進んで行きましたが、なんと日曜日に彼の決勝のレースが組まれてしまいました。彼はどうしたのでしょうか。

「私は礼拝の方に出ます、日曜日の決勝レースは棄権します」という、彼の選択でした。

私たちは、それぞれ、色々な走り方で、人生というレースをひた走っていますね。人の先頭に立って、引っ張って行く走り方をする人もいれば、安泰な道をゆっくりと走る、そんな人もいることでしょう。あの「炎のランナー」のように、日曜日のレースをあえて棄権した彼のような人生というレースの走り方は、人の先頭にとか、マイペースでとか全くちがう「信仰中心に生きる」という走り方があるのだということを、私たちに教えているのではないのでしょうか。

今朝、マルコ 9:30 以下に登場した、イエスの 12 弟子たちも「だれが、われらの中でいちばん偉いだろうか」などとひそひそ話をしてしていると、彼らの本意を主は見抜かれました。「あなた方は“誰が一番偉いか”など、何の意味もない話をしている。このような小さな子どもたちを主の名によって受け入れる、そんな者こそ“私イエスの本当の弟子”になれるのだよ」と、きびしく彼らを叱責されたのです。

私がよく知っている、ミュージシャンで牧師 2 世の陣内大蔵先生は歌われました。「いと小さき者のために」共に祈りを捧げようと。気がついてみたら、この世の一番後になっていたとしてもいい、この小さき子どもたちと、同じ思いになって、ひたすら祈り合っていく、そんなキリスト者としてあり続けたいものであります。